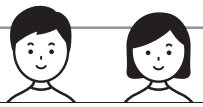

人権啓発標語

「注意する　勇気があれば　差別をなくす」

武蔵ケ丘小学校　６年　尾池　玲心菜（れみな）

「平和学習を通して」

菊陽北小学校　６年　吉岡　玲菜（れな）（現在中学1年生）

笑顔でポーズ

私たちは10月31日と11月1日に長崎に修学旅行に行きました。私たちは修学旅行に行くまでに平和学習をしていきました。戦争という言葉を聞いてはじめは「国と国が食べ物をめぐって戦っている」と思っていました。理由は歴史の勉強をしていて、前の時代は今みたいに食べ物がなくてたくさん食べられない人が多くいたから戦っていたのだと思ったからです。平和学習では「広島の今」について調べました。今の広島県は宮島や球場、ビーチなど素敵な観光地がたくさんあります。しかし、80年前の８月６日に世界で初めて人間の上に原子爆弾が落とされた町なのです。調べる中で原子爆弾を落とされてすぐの町や人の写真を見て「熱さや痛みでどれほど苦しんでいたのか想像もつかない」「町がこんなになるなら人間はどうなるなんだろう」と思いました。そんな広島が今の姿になるまでには人々の努力がたくさんあったことを知りました。戦争は人々から多くのものを奪ったのですが、「人と人の団結力やあきらめない気持ち、勇気」は奪えなかったのだと思いました。

私が修学旅行で一番心に残っていることは溝浦勝さんの話です。勝さんが戦争を体験してから80年近くたっているのに、忘れたいのに、はっきりと覚えているということから、戦争がどれだけ苦しくて、つらくて、おろかなのかということを改めて感じました。そして、思い出したくないつらさを私たちのために色々と話してくださって感謝でいっぱいです。こんな戦争を二度と繰り返してほしくないから、私たちに戦争の苦しみやつらさをうったえて、平和な未来をつくっていってほしいと思っていらっしゃるのではないかと思いました。だからこそ、私たちもその期待にこたえて学校生活での小さな争いや差別などをなくして戦争という言葉をなくしていこうと思いました。

担任より

平和学習全体を通して戦争が何を奪ったのか、何を奪えなかったのかを考えていきました。「戦争」に対する考え方が、学習や修学旅行を通して他人事から自分事に変わっていきました。共に戦争をなくしていくなかまになっていきましょう。

「６月23日は何の日か知っていますか？」
～今、改めて平和の大切さを考えましょう～

文責：町地域人権教育指導員　大塚　正信（まさのぶ）

毎年６月23日は沖縄慰霊の日です。沖縄戦で亡くなった人々を追悼し、平和を祈る日です。沖縄県では条例で定められており、県内の公的機関や学校は休日になります。この日が６月23日なのは、1945年６月23日が、沖縄戦における日本軍の組織的戦闘が終結したとされる日だからです。沖縄ではこの日、各地で慰霊祭や追悼式が行われ、正午には黙とうがささげられます。

沖縄戦とは、1945年の太平洋戦争末期に沖縄で行われた大規模な地上戦です。日本軍とアメリカ軍の戦闘の中で、多くの沖縄の住民が巻き込まれ、命を落としました。沖縄戦の特徴は、戦場が住民の生活の場そのものになり、子ども、高齢者、女性を含む多くの民間人が深刻な被害を受けたことです。そのため沖縄戦は、戦争が人々の命、暮らし、教育、地域社会を根こそぎ壊すものであることを学ぶ上で、きわめて重要な歴史です。

日本は、戦争をしてはいけないという平和の考えを大切にしている国です。けれども、世界では今も争いが続いているため、自分たちの国を守るための備えも進めています。つまり今の日本は、平和を願いながら、現実の危機にも向き合っている国です。沖縄戦では、多くの住民や子どもたちが戦争に巻き込まれました。だからこそ、私たちは戦争の悲しさを知り、命を大切にし、二度と同じ過ちをくり返さないよう平和について考え続けることが大切です。